お別れの言葉

伝統と歴史のある、母校、安積高等学校御舘校が令和３年度の卒業生をもって閉校するにあたり、これまでの多くの卒業生を代表して、あいさつをいたします。

御舘校が閉校となることは、入学前から知っていましたが、いざこの日を迎えると、寂しい想いばかりがこみ上げてきます。

三年前の春、私は緊張し、大きな不安を抱えながら御舘校に入学しました。なぜなら、中学校のときに、私は、勉強にも意欲が湧かず、友達づくりも上手くいかなかったからです。ただ静かに時間ばかりが流れているような毎日でした。

高校生活でも同じような毎日が繰り返されるのかという不安が怖いほど襲いかかってきていました。しかし、こんな不安も、すぐになくなりました。

クラスの人たちはとても優しく、内気な私に沢山話しかけてくれました。上手く会話ができませんでしたが、その一言一言がとても嬉しく、その度に不安がかき消されていくのがわかりました。

それからの私は、友達と接することに積極的になり、ますます友達と一緒に過ごす学校での時間が好きになっていきました。

私の心を大きく変えてくれたこの仲間をずっと大切にしていきたいと思っています。

それから、御舘校では優しい先生方にも出会うことができました。勉強ができない私に、先生方は優しく丁寧に教えてくださいました。理解できるようになると、私はとても嬉しくなり、勉強する意欲が湧いてきました。

こんなに勉強したいと思えたのは先生方のおかげです。本当にありがとうございました。

私は、御舘校での三年間に感謝の思いで胸がいっぱいです。七十四年の歴史の中で、同じように感謝の心で卒業していった先輩方が、数多くいらっしゃると思います。

そんな先輩方も同じように感じていると思いますが、数年後、ふと高校時代を思い出し、この地に戻ってきても、沢山の思い出が詰まった御舘校の姿がないということは、胸が締めつけられるような思いです。

しかし、たとえ学校がなくなったとしても、御舘校で過ごした時間は、永遠に私たちの心の中に残り続けます。

私は、この安積高等学校御舘校の卒業生であることを誇りに思います。

今まで、本当にありがとうございました。

令和四年三月一日　生徒代表　佐藤太希